

水稲用一発肥料のプラスチック殻は 水田から流出させないように努めましょう

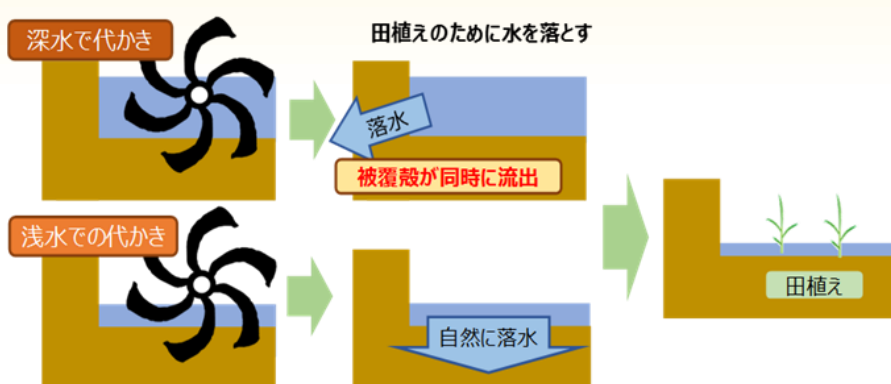
水稲用一発肥料は、プラスチック等で作った膜で肥料を覆い、水稲の生育に合わせて肥料成分が溶け出すしくみがあります。それによって肥料の長効き、追肥の省力、施肥量の減量、肥料分の流出防止などの利点がある一方、肥料の溶け出した後の膜はプラスチック殻となって河川へ流出することが環境問題に取り上げられています。

代かき時は、以下の対策を参考にプラスチック殻を水田から流出させないように努めましょう。

1 対策

① 浅水代かき

あぜが崩れていないか確認し、排水溝には止水板を設置したら、大部分の地表が見えるぐらい浅めの入水にしましょう。移植前の落水は行わず、自然落水により水位を調整しましょう。



土塊に付着するプラスチック殻



② 捕集ネットの使用 ※強制落水を行う場合の対応策です。

〈材料例〉玉ねぎネット、バーベキュー用の網、クリップ、園芸用支柱など（ホームセンターで入手可）

〈設置〉作成した捕集ネットは水尻に設置し、ネットへのゴミの目詰まり解消のために定期的に巡回します。



水尻口への防止柵の設置



水田外での捕集カゴの設置



様々な資材を活用した防止柵の設置

2 流出防止動画や事例集が下記から確認できます。

○ 対策動画

※動画開始時にコマーシャルが流れることがあります

＜ URL ＞ <https://youtu.be/f686ApBwBMQ>



○ 流出防止対策事例集

＜ URL ＞ https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_hiryo/hihuku_hiryo_taisaku.html



3 被膜は、使用するプラスチックの量を大きく減らしても肥料の溶け出し方の変わない工夫を施しています。光や土壌中の微生物で崩壊・分解しやすくなる被膜の実用化に向け、メーカーともに協力し技術開発に取り組んでいます。

■ 営農 News は J A 全農いばらき ホームページでもご覧になれます。